

# ノースカロライナは今

## —第6学年 ホットメールの活用—

大 松 恭 宏

### 1 はじめに

本校の総合的な学習（コンピュータ活用領域）の目標は次の3つである。

- (1) コンピュータなどの機器に主体的に関わり活用し、生活をより豊かにしていこうとする態度を養う。
- (2) コンピュータの基本操作技能を身につけることができる。
- (3) コンピュータの通信機能を生かした活用をし、情報収集や情報発信をすることができる。

これを受けて、高学年での目標を「コンピュータを使って、情報交換をすることができる。」としている。この目標を表面的にとらえると、情報交換ができればいいのかということになるが、もちろんそうではない。コンピュータ画面の向こうには「人」がいて、こちらには「自分」がいる。

つまり、コンピュータという手段を通して、人と人とが心の交流をしているのである。そこに喜びを感じ、自分の生き方を向上させていくところに本当のねらいがあるのである。

### 2 単元「ノースカロライナは今」

コンピュータの普及が各家庭にまでおよんでいることは周知の事実であり、今後の生活において、なくてはならない物になることは容易に想像できる。ただし、コンピュータに管理されるのではなく、コンピュータの特性を活かして自分の生活に役立てることができるようにならなければ意味がない。

そこで、本単元は、インターネットによる情報の収集と電子メールによる情報交換ができるようになることをねらいとして設定した。必要な時に、必要な情報を時間をかけず収集できるインターネットは子どもたちの興味・関心を引き起こすであろう。また、電子メールによる遠く離れた相手との交信は、国際社会に生きる21世紀の子どもたちにとって、よりいっそう世界を身近に感じてもらえることであろう。なお、「ノースカロライナ」は6月に本校を訪れたコックス先生の住む所であり、電子メールの相手はコックス先生の授業クラスである。

本学級の児童は、これまでに自分の知りたい情報をインターネットを通じて集めたり、ワープロ機能を用いて文章を書く経験をしてきている。ローマ字入力に抵抗をもつ子どももいるが、パソコンを操作することを好み、使いこなせるようになりたいという意欲が感じられる。電子メールについては初めての経験となる子どもがほとんどであり、新たな関心をもって取り組むであろうと期待している。コミュニケーションの一つとして、子どもたちの中に電子メールが活用されることを楽しみにしたい。

外国の友だちとメールのやりとりをすることは、文化や慣習の違い、考え方の違いにも気づくこととなるであろう。同世代のこうした交流は、今後の国際理解につながるものと期待している。また、互いの違いを認め合うことは、自分のまわりにいる人々の個性を認め、より広くコミュニケーションを求めることにつながるものと考えられる。

今回の活動では、環境設定も比較的簡単で費用も少なくすむ「ホットメール」を利用することとする。また、メールの入力は互いに母国語を用いることとし、翻訳には「ツナミレポート」を活用することとする。なお、「ツナミレポート」の翻訳機能には、多少の難点が見られるが、その点を理解した上での交信は、相手のことを考えたコミュニケーションとなるであろう。

### 3 活動のねらい

- (1) コンピュータの活用に慣れ、自分から進んで取り組むことができる。
- (2) 電子メールに興味をもち、外国の友だちとのコミュニケーションを楽しむことができる。
- (3) 電子メールの使い方や操作方法を身につけることができる。

### 4 活動の実際

#### 第一次 オリエンテーション「ノースカロライナは今」

- オリエンテーション ・交流の目的を話し合い、地図で場所を確認する
- インターネットの活用 ・2人で1台のパソコンを使ってノースカロライナについて調べる  
・検索エンジンの使い方について

—— 子どものふりかえりから ——

これまでインターネットで調べるとたいていのことはわかったが、「ノースカロライナ」は調べても調べてもあまり出てこない。しかたがないので、図書室に行って本で調べることにした。あんなに情報が少ないとは思ってもみなかった。インターネットも万能ではないな。

#### 第二次 ホットメールって何？

- ホットメールへの登録 ・自分のアドレスやパスワードを2人で1組になって登録  
・登録にいろいろと手間がかかるわけについて考える  
・守るべきルール（ネチケット）について考える
- ホットメールを開く手順 ・自分のアドレスとパスワードの大切さ
- ホットメールを送る手順 ・簡単なメッセージを隣のパソコンや先生のパソコンに送る練習  
・相手のアドレスを正確にインプットする  
・自分の名前を入れて責任を持つ、送ったメッセージの保存
- ホットメールを閉じる手順 ・サインアウトする

—— 子どものふりかえりから ——

メッセージを送ったり受け取ったりして楽しかった。自分の送ったメッセージに対して責任を持たなくてはいけないということがよくわかった。1文字ちがっただけで、相手に届かないで変な所に行ってしまった。悪いことをしてしまった。今度からはよく確認したい。

#### 第三次 電子メールで友だち増やそう



- ノースカロライナから  
・教師にきたメールを開き、子どもたちに紹介する  
・英語と日本語の両方を見せ、翻訳ソフトの性能から、自分が送る時に気をつけることについて話し合う
- ノースカロライナへ  
・自分の送りたいメッセージをメモする  
・ローマ字入力でメールを作成する  
・簡単な日本語、主語と述語、自分の名前  
・アドレスの確認をしてメールを送る

手紙の内容を考えるのが楽しかった。自分のメールがまちがいで届いてくれたらいいな。なんだかドキドキしてしまう。早く、返事が来ないかな。

何kmも離れた国の髪の色も目の色も言葉もちがう人とメールを使って話をするのは感激だ。ちゃんと英語に訳されてるかな？

なんだかよくわからない日本語だった。自分の手紙も変な英語になっているのかな。



#### 第四次 自分タイムへの発展（各自）

- メールのやりとり                      ・自分の時間を見つけて、季節や遊びのことなど

#### 第五次 その後

- VTRの交換                              ・互いの学校紹介のビデオ
- クリスマスカードの交換              ・クリスマスに間に合うようにエアメールで
- プレゼントの交換                      ・住んでいる土地の様子がわかる本やメッセージをそえて

#### 5 おわりに

「コンピュータを使って、情報交換をすることができる。」の目標のもとに取り組んできた実践である。ホットメールを利用したことは、インターネットが通じているパソコンだったらいつでもどこでも自分のメールを開くことができ、メールを送ることができるという利点があった。それゆえ、興味のある子どもたちは家に帰ってから自分でメッセージの交換をしていたようである。子どもたちの活動中の表情からも、メールを通じた外国の子どもたちとの交流を楽しんでいたことがよく伝わってきた。

残念なのは交流の相手が2年生という学年であったということである。「文化や慣習」の違いにはある程度触れることができたが、発達段階（年齢）の違いを埋める方法が見当たらず、「外国の考え方の違い」にまで目を向ける交流になりにくかった。ただ、互いの交流が翻訳ソフトを通じた母国語という点では、難しい英語が登場することはなく、理解しやすいという状況を生み出したものと思われる。

今回の活動の一番の成果は、「コンピュータを活用した交流」だけにとどまらなかったことであろう。「学校紹介のビデオ」は、アメリカの一つの小学校の様子を知るには充分すぎる内容であり、子どもたちは国による「学校の違いや授業の違い」を容易につかむことができた。また、クリスマスカードやプレゼントの交換という、相手を書いたありのままの文字や絵、アメリカのおもちゃやチョコレート・キャンディは外国を身近に感じさせてくれた。

肌の色が違っても、髪の毛の色が違っても、年齢が違っても、互いに尊敬し合う「人間」としてつきあっていくという体験は、今後の子どもたちの生き方にプラスになると信じている。

コンピュータを通じた交流から生まれた新しい交流、費用の面では多少高くついてしまうが、コンピュータの持つよさを改めて示してくれたのではないだろうか。今後は、自分たちの手でこの交流に深まりと広がりを与えてほしいと願っている。